

# ダンボールコンポストの作り方（「生ごみ」を堆肥にリサイクル！）

## ◇ ダンボールコンポストとは？

ダンボールコンポストとは、段ボール箱を利用した「生ごみ処理容器」のことです。その仕組みは、段ボール箱の中に、「ピートモス」や「くん炭」などを入れた簡単なもので、好気性（酸素を必要とする）微生物の力によって、「生ごみ」を分解し、堆肥（肥料）を作ります。ご家庭から出る「生ごみ」は、どこにでもある段ボールを使って、堆肥にリサイクルすることができます。

## ◇ ダンボールコンポストのメリット

### ・ 材料が安い！

手軽に入手できる段ボール箱と、2種類の土壌改良剤があれば簡単にできます。また、生ごみ処理機のように電気を使わないので、電気代がかかりません。省エネにもなります。

### ・ 発酵剤などの薬品は使わないので、「安全な堆肥」として使える！

ダンボールコンポストは、微生物の力だけで「生ごみ」を分解処理するので、発酵剤などの薬品を使用しません。「生ごみ」を入れてかき混ぜるだけです。また、できた堆肥は、化学肥料を使わない安全な有機肥料として、畑や家庭菜園・ガーデニングなどで使用できます。

## ◇ 用意するもの

- ・ 厚めの段ボール箱 2箱
- ・ ピートモス【基材】 12リットル  
（微生物が「生ごみ」を分解します。）
- ・ くん炭【基材】 8リットル  
（「生ごみ」のにおいを抑えます。）
- ※ 「ピートモス」・「くん炭」は、ホームセンターや園芸店で販売しています。
- ・ 中敷き用新聞紙 2部程度
- ・ ガムテープ
- ・ スコップ（混ぜるため）
- ・ 段ボール箱を乗せる台  
（底の通気性を確保するため）
- ・ いらなくなったTシャツなど  
（虫の侵入を防ぐため）



## ◇ ダンボールコンポストの作り方

① ダンボール（2つ）を組み立てます。



② ダンボールの隙間を補強します。  
ダンボールの隙間を、すべてガムテープで補強します。  
※特に底部はよく補強をしてください。



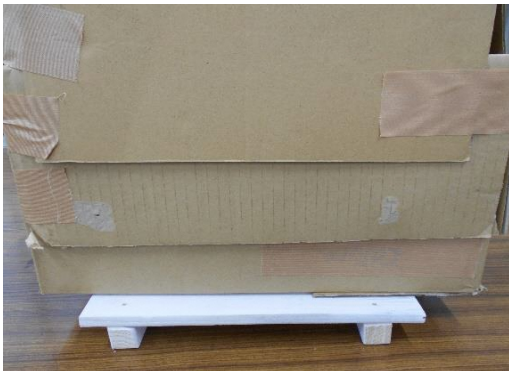
- ③ 2つの段ボールを重ね、新聞紙を敷きます。  
（土が漏れたり、虫の侵入を防ぐため）



- ④ ダンボールに混合した土（基材）を入れます。  
 ・ 基材を入れます。箱の6割程度が目安  
 ※ピートモスとくん炭を3対2の割合  
 ・ 水を少しずつ入れ、ゆっくりとかき混ぜる。  
 ※1リットル程度



- ⑤ ダンボールを台に乗せます。  
（通気性を良くするため）



- ⑥ Tシャツでふたを作ります。  
（防虫・防臭のため）  
※微生物の呼吸のため、通気性のあるものが良い。



◇ 処理方法

- ・ 「生ごみ」はよく水を切り、細かくしてから入れます。
- ・ 1日に処理できる量は、目安として500グラム
- ・ 「生ごみ」を入れるたびによくかき混ぜましょう。
- ・ 廃油や米ぬかなどを入れると、分解が早くなります。



◇ 注意点

- ・ 春から夏、秋頃までは分解しやすいですが、冬はほとんど分解しません。
- ・ 玉ねぎの外皮、とうもろこしの芯や梅の種などの固いものは、分解しません。

◇ 完成した堆肥は？

- ・ 3カ月くらい経つと、塊（ダマ）が多くなります。
- ・ 「生ごみ」の投入をやめ、土と混ぜて1か月程度寝かせます。
- ・ 家庭菜園や、プランターなどにご利用ください。



【問い合わせ先】 ※瀬戸内市ホームページも掲載しています。ぜひご覧ください。  
 瀬戸内市役所 生活環境課 （0869-22-1899）まで